



(社)日本技術士会 中部支部内 愛知県技術士会事務局

〒450-0002 名古屋市中村区名駅五丁目4番14号 花車ビル北館6階

TEL(052)571-7801 FAX(052)533-1305

URL <http://www.mmjp.or.jp/chubu-IPEJ/aichi.html> MAIL g-chubu@asahi-net.email.ne.jp

「巻頭言」

技術士になって良かったこと

愛知県技術士会副代表幹事

大丸 晋

一、はじめに
時が経つのは早いもので、技術士試験に合格しイヌマル技術士を形式的に開設してマル〇年が経過しました。この間、柴田代表幹事はじめ、多くの先輩技術士の皆様にお世話にたつた。本当に技術士になって良かったと感謝している。そこで、技術士になって良かったこと、これから何をなすべきかについて考えてみた。

二、技術士資格取得の動機

正直に言って、企業に勤めている間、技術士資格については、全く知らなかった。

約四十年の会社勤めの後、ある人を通して、(財)素形材センター(鋳物、鍛造等の業界団体)からJICAの短期調査に参加しないかとの誘いがあつた。日立製作所出身の技術士の担当者から、技術士資格の取得を勧められた。JICAの仕事はそっちのけにして、技術士試験の過去問集を購入し勉強に取り組んだ。丁度このころ、中部技術士会から各部門の模範解答集が出版された。また、平成十四年度の技術士試験は一次試験免除の最後の年でもあつた。

運良く試験に合格できたのは、上記模範解答集の非鉄生産システムを参考に答案構成をすることができたためである。後から分かったことであるが、この模範解答を書かれたのが、柴田代表幹事であつた。このような縁もあり、平成十六年

度からの幹事を仰せつかつた。
何かと、愛知県技術士会の皆様にお役に立ちたいと考えておりますが足手まといになることが多くて申し訳ないと思つております。

三、技術士資格を取得して良かったこと

①名刺に技術士と書けることがある。エネルギー管理士資格を現役時代に取得していたが、これのみでは非常に寂しい限りであつた。また、技術士に定年はないこともよいことである。

②愛知県技術士会の行事に参加して、多くの技術士の皆様と、特に専門の異なる方、また、年齢の異なる方とも、公平にお付き合いできることは、精神的衛生ばかりでなく、肉体的健康にも非常に良いことがわかつた。酒は強くないが、飲むと顔が真っ赤になり飲んだふりができるので、技術士の皆様と本音でお付き合いできる機会多く、これまた、精神的な健康維持によいことを確信した。

③愛知県技術士会以外にも、六五歳以上の中部シニア会に常時出席される方は、ほとんどが愛知県技術士会の会員で、第一線を引退した技術士の皆さんで、とにかく肉体的にも、精神的にも健康で、企業等を引退した技術士以外の方と比較すると、格段に「若」さを保つておられ、かつ、趣味の広いことに驚かされる。この点は、多いに見習いたいものである。

④技術士会の事業活動を通じて、技術の動向を勉強することが出来る。たとえば、企業に勤めているときには、技術者倫理について、言葉さえもが理解されていなかった。倫理研究会(ETの会)に参加

して、技術者倫理の大切さがわかつた。地球環境問題、ISO関係、パソコンの勉強等の身近な勉強などまだまだ毎日が勉強である。

四、これからやるべきこと

①愛知県技術士会員の皆様の意識についてアンケート調査の担当幹事をおおせつかつた。その中で、技術士の社会的認知度が、弁護士、司法書士、弁理士に比較して著しく低い。また、報酬についても低い。これらを向上するにはどのようなすべきか、妙案はないが、皆様と知恵を絞りたいと考えております。中部シニア会として、企業等、OBマツチング愛知協議会、名古屋市新事業支援センター、名古屋工業振興会、愛知中小企業家同友会、中部、航空技術支援センター(CASTEC)、中部科学技術開発センターなどと接触し、知名度の向上と、業務開発のセンサーの役割を果たすべく、努力中である。粘り強く、技術士が受け入れられるよう会員の皆様と努力したい。この原稿を書いているとき、企業等OBマツチング協議会から電話がかかつてきた。登録してから一年以上音沙汰なかつたが、事務局で努力してくれていたことに感激した。本件どうなるかは、今後の話し合いによることになるのは当然であるが、動き出さないと何も起こらないことは確かである。技術士の皆様のセンサーの役を果たせることを希望して努力してみた。

②CPD(Continuing Professional Development)のためには、CPDをしつかりやることにより、自己研鑽を積み、真に役に立つ技術士になることである。過去に、蓄積した専門事項は、大企業では、後輩技術者がそだっており、役に立たな

いが、小企業や海外の後進国技術改善なら役に立つと考えている。学会、私の場合、軽金属学会、日本鑄造学会に出席し、できるだけ、Englishな情報を得るようにしている。技術士（化学）の長谷川正先生主催のプラスチック研究会にも出席させて頂き、金属以外の材料についても理解を深めようとしている。異分野の技術士との交流は特に大切である。たとえば、自動車の軽量化に対する提言も、アルミ化のみによるより、プラスチックと複合化して提言できれば、より大きな効果をもたらす。

四、まとめ

以上、つまらないことを述べたが、人と人のつながり「縁」を技術士会からいただいたのが、技術士になった最大のメリットである。今後とも、愛知県技術士会の皆様の「縁の下」の力持ち「あるいは、センサーとしての働きができれば」と願っております。

以上

「湖海の士」

一枚の写真

建設部門 森澤千春

私は昭和四十七年に東海電気工事（現トーエネック）に入社以来、三一年間にわたり電力管路・洞道・発電所及び変電所など、電力流通施設の建設に従事してきた。平成十五年から排水浄化や土壌・地下

水汚染に係る調査・対策工事など環境修復分野の事業開発に取り組み、現在に至っている。

排水浄化分野では、石川県羽咋市射撃場や京都府射撃場において「人工ゼオライト水質浄化システム（ろ過式）」を用いて、鉛汚染排水の浄化に取り組んでいる。平成十六年度は、環境省「環境技術実証モデル事業」に応募・選定され、広島県呉市の中国工業（株）構内で、排水処理装置「彗星」と凝集剤「エレクトロサイトアッシュ」を用いた実証試験を実施した。応募は二度目の挑戦であった。応募は振り返ると半生近く建設に従事してきたことになる。

話は遡るが、私は長野県佐久市に生まれ、小学6年までの幼少期は、小県郡丸子町で育った。佐久市は、北を浅間山に、南を八ヶ岳連峰に囲まれ、南北に千曲川が貫流する高原都市である。丸子町は西の端が美ヶ原高原に連なり、南に蓼科山を望み、町の中央を依田川が東西に貫流して千曲川に注ぐ。自然豊かな町である。亡き父は、シベリア抑留から帰還した後、この町で電気工事業を営んでいた。幼少の頃、私は母に手を引かれ、しばしば御代田町広戸にある母の実家を訪れた。御代田町は、浅間山の南麓に位置し、東は軽井沢町、西は小諸市に接する高原の町である。御代田町を含む佐久盆地の地形は、千数百万年前の浅間山の大噴火で噴出した火山灰や軽石が、一帯を二〇〇三〇mの厚さで覆った後に河川が侵食し、凹地の谷と凸地の台地が連続する「田切り地

形」である。

丸子町から母の実家までの道のりは、当時運行していた丸子電鉄で大屋に向かい、大屋で信越線に乗り換えて御代田駅で下車。駅から広戸までの1里の「道」は徒歩で、時には荷馬車で通ったものである。駅を背にしばらく歩くと、白樺の木や渚木が生い茂る林に入る。うっそうとした林を過ぎて、岐路を左に折れると切り立った崖沿いの道となり、目の前に深い谷が開ける。道は、緩やかに右に曲がりながら谷を越え、対岸の切り通しを左に曲がると急に見通しが良くなり、目の前に浅間山の雄姿が飛び込んでくる。母の実家もこの直ぐである。

この道を通る度に、母が「この道はお祖父さんが造った道だ」と語ってくれたことを今でも覚えてい。当時は舗装されておらず、私の中では、祖父は「道普請した」程度の記憶に過ぎなかった。

「道」に対する意識が変わったのは、土木科の学生時代である。母の実家を訪ねて、車でこの「道」を走った時、谷を横断する「道」の構造が気になり車を止めた。

「道」は、直高約二〇mの盛土の天端にあり、幅員は七m以上あった。盛土の下には暗渠が構築されており沢が流れていた。祖父が造った「道」は、紛れも無い土木構造物だった。

母の実家で、古いアルバムを見たとき、私の目は、一枚の写真に釘付けとなった。写真は、昼間見た道路下の暗渠の「鉄筋組立て完了時」に撮影されたもの。四〇人

ほどの作業員の中ほどに、祖父の姿があった。この時、私の体に祖父の「土木屋」の血が流れていると熱くなったことを覚えている。祖父から建設業を受け継いだ叔父の話から、「道」は祖父が請負ったものであり、重機のない時代に、トロツコで資・機材を運搬し、人力だけで土羽を盛り立てたことを知った。人力だけで構築されたその「道」が、六〇年経った今でもビックともしないのである。写真は今も私の心に焼き付いている。祖父の名は柳沢乙一という。明治二十九年に生まれ、昭和三八年に没している。

戦前に祖父が造った「道」は、「田切り地形」で往來に苦勞していた集落の人々の暮らしを楽にするとともに、特産品の高原野菜出荷するための産業基盤となった。





次いで父は、戦後の復興期に、和田村や長門町など無灯火の集落に灯をともし「点火工事」や水力発電所の建設に従事した。生前、この話を誇らしげに語った父が想い出される。私は、高度成長期に、社会基盤となる電力流通施設の建設に従事してきた。そして今、私の息子は、ゼネコンに勤務して高速道路や新幹線の建設に携わり、現在は、コンクリート診断や土壌汚染対策など、「メンテナンスの時代」に相応しい仕事に従事している。

戦前、戦後そして現代、親子三代にわたり社会資本整備の一翼を担ってきたことを誇りに思う。と同時に、次の時代を担う四代目の息子に一枚の写真を託し、何かを



掴み取ってくれば、と願うばかりである。

以上
(次は、エネルギーシユな横山芳昌先生にバトンタッチします)

「お知らせ」

●二〇〇六年第一回例会

日時 六月十七日(土)
「あいち交流会」

愛知県技術士会会員の交流を図ることを目的に、技術士(補)の新合格者の方、企業内技術士の方、独立技術士の方、それぞれ数名ずつによる発表会を企画しています。会場は名古屋国際会議場です。企画の詳細は愛知県技術士会ホームページをご覧ください。

●二〇〇六年第二回例会

日時 八月十九日(土)
「内藤洋子講演会」

エッセイストの内藤洋子様を講師にむかえての「講演会」を企画しています。内藤洋子様は、中日ドラゴンズなどで活躍した元プロ野球選手の平野謙氏のお姉さまとしても知られています。エッセイストとしてのデビュー作「わが故郷は平野金物店」(エフエー出版)は、NHKテレビで、「ようこそ青春金物店」として連続ドラマ化されました。ご本人の体験に基づく本音に徹した面白い講演は、全国各地からひっぱりだこということですね。会場は名古屋国際センターです。演題などの詳細が決まりましたら、ご案内を致します。

●お知らせについて

愛知県技術士会ではインターネット上でもホームページによるお知らせをしております。愛知県技術士会の行事日程、行事報告等については、ホームページ上でほぼ、リアルタイムで情報提供しておりますので、ホームページ上の「愛知県技術士会からのお知らせ」を併せてご覧下さい。

「編集後記」

今年は全国的に冬が長く厳しく、ようやく春めいてきたかと思えば、すでに桜も散る候となりました。

今号は、大丸副代表幹事の気合のはいった巻頭言と、森澤さんの貴重な写真をご提供頂いての湖海の土を掲載することができました。半世紀以上前の土木現場の写真であり、産業史上からも重要な資料といえそうです。

幹事会では、会報とホームページの統合を視野に入れながら、今後、双方のコンテンツの充実を図っていくことが確認されています。

今回の写真資料のような産業技術史に関する資料や、新しい工法、技術に関する情報が、会員の皆さんの許に多数、蓄積されているものと存じます。

そのような情報があれば、ぜひ、ご一報下さい。「湖海の土」以外にも、会報かホームページにコーナーを設けて、広く会員の皆様に情報提供させて頂こうと思います。なお、次号、七一号は、六月中旬の発行となります。